

*** ある日の育児日記から ***
 ***** (5) *****
 佐藤 和代 ***

休みを利用して、敬（夫です）の田舎へ行ってきました。着いて二日目くらいから、圭の言葉が急に進歩してしまつて、びっくり。

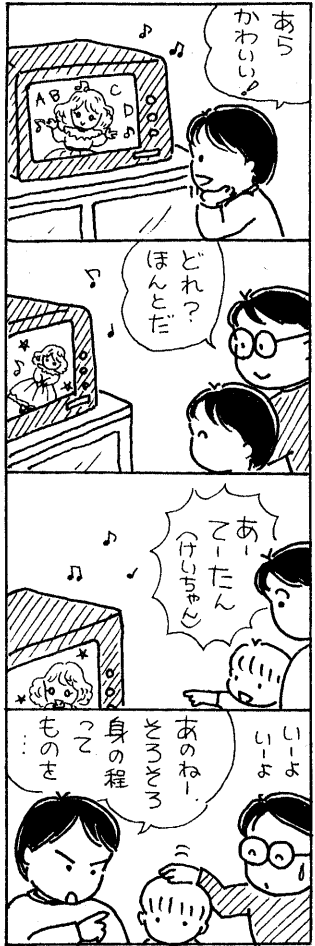
今まで「とーと（お父さん）」、「かっか（お母さん）」、「まんま」など、簡単な一語文しか話さなかつたのに、いきなり文章をしゃべり出したのです。初めての文章は「てーたん（けいちゃん）のぼうしないうー」。うっ、主語に述語に、修飾語まであるっ!! 親はしばし呆然です。

田舎の家は大家族。やはりいつもと刺激の量が違つたのでしょう。二日目の夜は、自分でもしや

べれることに興奮して、切れ目なくおしゃべり。なかなか眠ろうとせませんでした。

家に帰つて、友人に電

話でこのことを伝える（自慢する？）と、友人が言いました。「言葉って、ある日突然わーっと出てくることもあるんだって、言葉の爆発っていうのよ。」爆発。そう、ちょうどそんなイメージです。今までためたためてきた「言葉」というエネルギーを、一度に放出したかのよう。



もっとも、「文章を話す」なんて思っているのは親だけ。他人が聞けば、何言っているのか全然わからない……というものなのですけど。

